

○平成29年度教育事業

「教員免許状更新講習」(H29.7月31日(月)～8月2日(水))



平成29年度 国立大雪青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習

期日:平成29年7月31日(月)～8月2日(水)

募集:35名(先着順とさせていただきます) ※受付は受講申込書をFAX等で当所に提出

対象:小学校教諭

- 平成29、30年度末が終了期限の方
- 小学校の事例を多く扱うため、対象は小学校教諭としますが、中学校教諭、高校教諭、特別支援学校教諭等の受講も可能です

会場:国立大雪青少年交流の家

- 体験活動を中心としたプログラムとなっています。
- 内容は「教科指導・生徒指導その他教育の充実に關する事項(選択18時間)」です。
- 2泊3日(当施設宿泊)で18時間分取得できます。

〒071-0235 北海道 上川郡美瑛町白金温泉 TEL 0166-94-3121 FAX 0166-94-3223
E-mail taietsu-suishinaitou@niye.go.jp ホームページ <http://taietsu.niye.go.jp/>
受講申込書は、ホームページからダウンロードできます。不明な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

◆目的

教員免許状更新講習の実施。

主として小学校教諭を対象とし、学校教育における体験活動の意義を理解し、体験活動を実施する上での指導法や安全管理のポイントについて実体験を通して習得し、学級経営や生徒指導に活かす。

◆参加実績(募集35名)

参加者数:37名

	H29	H29 参加者地域内訳
小学校	24	上川4、留萌5、石狩2、胆振4、後志4、桧山1、オホーツク3
中学校	2	オホーツク1、上川1
高等学校	8	上川4、石狩3、オホーツク1
特別支援学校	3	上川2、空知1
その他	0	0
合計	37	37

参加者の年齢内訳

30代: 男性2名 女性3名 計5名
40代: 男性12名 女性8名 計20名
50代: 男性7名 女性5名 計12名

参加者の男女比: 男性21 女性16名

◆プログラム

①学校教育における体験活動の意義と学習指導要領【講義①】

講師: 名寄市教育長 小野 浩一 氏

- ・学校教育における体験活動の意義について理解を深め、新しい学習指導要領との関連や、体験活動の充実に關して理解を深めた。

②青少年教育施設における体験活動の実際【講義②】

講師: 国立大雪青少年交流の家次長 中田 和彦

- ・青少年教育施設が企画・実施する体験活動の実際と効果について、理解を深めた。

③体験活動を通した望ましい人間関係づくり【実習①】

講師: 国立大雪青少年交流の家企画指導専門職

安達 義徳 国枝 知

- ・円滑な人間関係やコミュニケーション能力を高めるための指導法について、実技を通して学んだ。



④授業に活かせる天体観測の指導法【実習②】

講師：北海道天文普及協会 平井 諭 氏 吉田 玄一 氏
・小学校の理科指導に活かせる天体観測の指導法を、実習を通して体験的に学んだ。



⑤災害時に役立つ野外炊事【実習③】

講師：国立大雪青少年交流の家企画指導専門職
安達 義徳 国枝 知
・災害時を想定し、限られた食材・器具で調理を体験し、災害時に役立つ食事の準備について考えを深めた。

⑥夏期間の体験活動と安全管理【実習④・講義③】

講師：北海道教育大学岩見沢校准教授 濱谷 弘志 氏
・夏の野外で、子供たちが興味・関心を持って主体的に取り組める体験活動と安全管理について学んだ。



⑦今日的な教育課題【講義④】

講師：北海道立教育研究所企画・研修部長 中澤 美明 氏
・現代の子供の現状と、教育課題及びその解決策について理解を深めた。

⑧履修認定試験

・論文及び選択式問題の履修認定試験を実施した。

◆成果

- 受講者全員が、新学習指導要領と体験活動との関わりについて理解を深め、履修認定試験に合格することができた。
- 受講者が体験活動の重要性を理解し、学校現場において子供たちに体験活動を通じた教育を推進していく意欲を高めることができた。

◆参加者の声

- 体験活動の重要性がわかった3日間でした。体験活動を教育にどのように取り入れ、その課題について理解が深まった。
- 他校種の人との関わり、同校種（普段会えない先生）との関わりは刺激になりました。
- 体験活動を通して様々な力の育成ができるということを改めて確認できた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 早期の広報、夏休みにまとめて単位が取得できるという利点があり、受講経験者の評判を参考に受講する等、質の高い、受講者のニーズに即した講習を実施することができた。
- 災害時を想定した野外炊事など、学校現場での汎用性の高い体験プログラムが、受講者の高い満足度につながる。
- 講師との事前連絡（講義資料の共有、しおりの送付）が十分でなく、講義内容が重なる部分が見られたため、担当者が事前に講義内容を把握し、講義内容を調整する必要がある。（重複部分を事前に知らせておけば、講師の方で調整して講義を行うことができるようになるため。）
- 交流会や自由時間など、プログラム以外の場面で受講者同士の交流を促すしかけが、学びや気づきを深める機会となる。

◆事業運営費

講師旅費・謝金（5名）	104,100円
通信費	4,512円
燃料費	3,528円
合計	<u>112,140円</u>